



クイナ  
(小泉橋)

4班 西木 豊 撮影

発行日 令和5年7月10日  
 発行元 大山崎ふるさとガイドの会(OFG)  
 発行責任者 脇田 幸三  
 連絡先 大山崎町歴史資料館内  
 TEL 075 (952) 6288, FAX 075 (952) 6289  
 URL <https://www.kyoto-ofg.org/>

第 1 7 7 号

\* \* \* \* \*

**地域の過去と今をつなぐ文化財の仕事**

古閑正浩

私の仕事の軸足は、埋蔵文化財の発掘調査です。ここでは、地形や環境を重視して地域の歴史を引き出していくことが基本となります。こうして、地域像から時代性や社会性を見つめ直す作業を繰り返しおこなってきました。

例えば、大山崎瓦窯跡。律令国家は、儀礼や政務の舞台として瓦葺きの大規模な宮殿を必要としました。その瓦を生産したのが大山崎瓦窯跡です。平安京を中心とした時代や社会から大山崎瓦窯を評価するのは容易です。しかし、それだけでは、大山崎瓦窯がなぜここに存在したのか、解けていません。交通網としての地の利や、山林資源などの地形環境、平安京遷都によって生じた山崎津(港湾)などのインフラ整備など、地域を関連づけながら考察を深めていくことが解明の鍵となります。大山崎瓦窯跡を深く探るほど、平安時代の具体的な理解につながるわけです。史跡大山崎瓦窯跡公園の説明板は、こうした観点で記述し、関連する図を掲載しています。

境野1号墳・鳥居前古墳、松田遺跡の古墳時代集落、百々遺跡と山陽道、河陽離宮推定地の礎石建物など、地域の目線で検討してきました。誤解を恐れずに端的に言えば、大山崎の歴史は、水陸の結節点を他地域との交流の場とし、天王山と山麓を統合の象徴の場としてきました。交通手段が鉄道や自動車に置き換わっても、この地域の構造は変わらず、時代を貫いて今に至っています。

文化財の仕事は、地元の資料を上記のような調査研究によって価値付け、記録や保存を行い、それを地域で活用することにあります。地域の過去と今をつなげる役割です。こうした仕事をこの大山崎町でさせていただけたことは、私にとって最高に幸せでした。

私は、令和4年度末をもちまして、早期退職制度によって、大山崎町を退職させていただきました。60歳までの残り6年間は、環境を変え、別の視野から文化財の仕事に向き合ってみようと決断いたしました。そのことが、さらに深く広く大山崎を知ることになると信じています。

本年4月からは、公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所の調査課に勤務しています。初めての調査現場は、平安京左京一条三坊十一町で、織田信長が足利義昭のために築城した旧二条城の一角です。室町幕府の中心地に当たります。大山崎は、足利将軍と対峙して自治を確立しました。ここから大山崎をみつめてみたいと思っています。

ふるさとガイドのみなさまには、大山崎町在職中は、たいへんお世話になりました。そして、育てていただいたことに感謝を申し上げます。本来なら、お世話になった具体的な業務内容にふれ、お礼を申し上げるべきところですが、紙幅の都合もあり、どうかご寛容を請いたく存じます。大山崎愛はますます深まるばかりですので、今後とも、よろしくお願い申し上げます。

5月～6月の活動実績	活動予定
<p>1. 主なガイド</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月1日(月) 第二大山崎小学校4年生校外学習支援 39名</li> <li>・5月17日(水) 吹田郷土史研究会 32名</li> <li>・5月20日(土) 春の天王山ウォーキング 131名</li> <li>・6月10日(土) 阪急沿線観光歩き(長岡京市主催)協力 26名</li> <li>・6月28日(水) 泉が丘ふれあいサロン(出前ガイド) 16名</li> </ul> <p>2. 会の行事など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・5月18日(木) 新規入会者現地学習会 2回目</li> <li>・5月22日(月) あちこち学習山歩66 伊賀越えの道</li> <li>・6月15日(木) 新規入会者現地学習会 3回目</li> </ul>	<p>1. 主なガイド</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月6日(木) ONCCぶらっと散策 3班</li> <li>・7月22日(土) 守山市伊勢遺跡保存会 1班</li> </ul> <p>2. 行事予定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月20日(木) 現地学習会と交流会(長岡京市と合同)</li> <li>・8月8日(火) 令和5年度大山崎町人権教育夏期研修会</li> </ul> <p>○アサヒグループ大山崎山荘美術館 企画展</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・7月15日(土)から「受贈記念：没後10年船木倭帆展」</li> <li>*「アサヒビール大山崎山荘美術館」は7月1日から「アサヒグループ大山崎山荘美術館」に名称変更しました。</li> </ul>

5-6月 ガイド実績

	一般ガイド		主催ガイド		歴史資料館		出前ガイド		定点ガイド		合計	
5-6月	9件	138人	1件	131人	71件	135人	1件	16人	181件	558人	263件	978人
5年度累計	14件	217人	1件	131人	107件	202人	1件	16人	261件	777人	384件	1,343人

## 春の天王山ウォーキング 感想文



私は、毎年6月に、大峰山修行をしています「大阪信照講」の阪口と申します。

今回、その講のメンバーで「大山崎ふるさとガイドの会」の加藤良一さんからお誘いを受け、講のメンバー7名が参加しました。

私自身は9年前に一度、関西私鉄のイベントで今回とは逆コースの小倉神社から天王山に登っています。

全員集合し9時15分に加藤さんのガイドのもと出発しました。

今回、いろいろと印象に残ることがありましたが、二つ書かせてもらいます。

一つは「離宮八幡宮」です。なんと、川向こうの

「石清水八幡宮」と本家争いをしたんですね。結局、本家争いには負けたということですが、荏胡麻油の販売で有名などころなんですね。知りませんでした。

もう一つは、何とんでも「旗立の松」より見た、山崎合戦地跡です。秀吉軍と光秀軍が争い2時間ほどで秀吉軍の勝利。

その後の豊臣家の栄華と没落。その景色をみると、歴史をもっと勉強しなくてはという気持ちになりました。

気ごろのわかっています加藤さんのガイドで、また講のメンバーと楽しい時間を過ごしまして、午後2時、西山天王山駅に到着しました。

加藤さん、ありがとうございました。また、大山崎の歴史を探索したいと思います。

(大阪信照講 阪口昭彦 記)

## ～わたしのふるさと～

OFG との出会い、私にとって新たな勉学の場となりました。日々新鮮な情報や感動が得られることがガイド活動の原動力となっています。大山崎の歴史を学び語る中で、私のふるさと山口県の旧長州藩士と向き合い、感慨にふけることがよくあります。

幕末の思想家・吉田松陰を学ぶ中で、最近判明し衝撃を受けたのは私が学んだ小学校の近くに吉田松陰の母・滝子さんの実家があったことです。滝子さんは阿川毛利の家臣・村田右中の三女で、その後に児玉家の養女となり杉家に嫁ぎました。滝子さんは大らかで苦勞を苦ともせず、働き者であったとのこと。

『親思ふ こゝろに  
まさる親こゝろ けふの  
音つれ何ときくらん』  
〈松陰の永別句〉(右画像)  
…… 帰省した際には松  
陰神社を訪ねたいと思  
います。

(3班 澤田裕子 記)



私のふるすとは、岡山市と鳥取市の中間に位置する津山市で、岡山県東部の中核都市の城下町です。初代領主は津山(鶴山)城を築いた森蘭丸の弟の森忠政で、森家が三代続いた後は、松平家が後をついで幕末に至ります。

私が育ったのは、鶴山城址から約4Km北で13戸の田舎の集落で皆が親戚のような付き合いをしており、仲間と悪いことをして近所の人によく叱られたことを記憶しています。

現在は、田んぼだった所に多くの家が建って昔の面影もなく、知り合いも少なくなって寂しいかぎりです。

観光的には、桜の花を上から見れる鶴山公園、その北にある藩主の別邸衆樂園、忠義桜で知られる作樂神社、京都に次ぐ扇形機関車庫等があり、江戸時代にも津山藩と彦根藩が牛肉を食べることを認められていたこともあるのか「ホルモンうどん」も有名です。

機会があれば一度のぞいてみてください。

(4班 矢内章太 記)

## 第二大山崎小学校天王山登山に参加して

5月1日(月)、五月晴れの中、天王山登山に参加しました。

元気いっぱいの小学校4年生総勢39人中4人を、小倉神社-天王山山頂-酒解神社-瓦窯跡公園-観音寺の順に先導しました。

話しかけると、「天王山に50回以上登ったよ」、「2,000m級の山に登ったよ」とかの自慢話が出てきたり、説明をじっと聞いたり、「秀吉知ってるよ」とか、何にでも興味津々な年ごろだと感じました。

替え歌を歌ったり、急に走り出したり、無邪気だけど、なかなか目が離せない局面もありました。下りの



瓦窯跡公園での説明

の歩行では小股で垂直に踏みしめて歩くと滑りにくいか説明すると少し興味を持ってくれました。

今の内から歴史に対する興味、自分の故郷への愛着と誇り、そして山登りへの興味を抱いてくれればと感じた次第です。

(4班 高垣真二 記)

## あちこち学習散歩 65 伏見を歩く

4月17日(月)晴天、参加者18名+1、3班の野尻さんの案内で、竜馬の幕末ゆかりの町・伏見を歩いた。

名水100選の御香宮神社を参拝し、鳥羽伏見の戦いの跡、伏見酒蔵通り、濠川堤防沿いを歩いて寺田屋へ。黄桜カップカントリーのレストランで利き酒を楽しみながら食事をして、昔ながらの町並みが残る伏見大手筋商店街を散策した。近鉄桃山御陵前をスタート/ゴールとするとても魅力的なコースだった。

御香宮神社は神功皇后を祀り、平安時代に境内から香りのよい水が湧き出していたので、清和天皇により“御香宮”の名を賜ったと伝わっている。

幕末の鳥羽伏見の戦いでは薩摩軍が陣を構えた。幕府軍が陣を構えた伏見奉行所は直線で500mもないのに驚く。

野尻さんはじめベテランガイドの皆さんの「うんちく」を聴きながら、楽しい時間を過ごすことができました。(プラス1の)家内ともども大いに楽しみました。

(1班 田口 准 記)



御香宮神社の石灯籠  
(燈油を注ぐための  
階段がある)